

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4472500489		
法人名	有限会社 ケアつかさ		
事業所名	グループホームコスモなおかわ		
所在地	大分県佐伯市直川大字横川508番地		
自己評価作成日	平成26年6月	評価結果市町村受理日	平成26年11月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4472500489&amp;SCD=320&amp;PCD=44">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4472500489&amp;SCD=320&amp;PCD=44</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構		
所在地	大分市大字羽屋21番1の212 チュリス古国府壱番館1F		
訪問調査日	平成26年6月10日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

安心安全、快適に生活していただく事はもちろんですが、季節感を感じていただくためにも、1ヶ月に1回ドライブに行ったり、田植えの見学や稲刈りに参加しています。高齢化が進んでますが、今後も続けていきたいと考えております。  
1日の日課としましては、毎朝ラジオ体操の後楽しみながら、レクリエーション感覚で体を動かせるように取り組んでいます。  
家族の方には、毎月担当職員が、入所者の方々の近況を写真をそえて報告しています。

みどり豊かな自然に囲まれ、落ち着いた時間の中でその人らしく過ごせる環境が提供されています。地域との交流も盛んに行われ共存し、支え合う関係が築かれています。  
一日を通し利用者さんが集まり安心・安全のもと、笑顔のあふれた1つの大きな家族という関係がうかがえました。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、基本理念を唱和して毎日の業務に取り組んでいる。	運営推進会議の中で地域の方から意見を頂き、理念を決めています。支援の場面でも理念が反映されており職員に浸透しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の行事に参加し施設の夏祭り、運動会等の行事には、案内をして参加してもらうよう努めている。	施設の行事には地域ボランティアの協力を得て沢山の方が来られています。又、地区の行事には施設から食材を提供したり、双方で協力し合い支え合う関係が出来ています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区の中学生の福祉体験学習を受け入れ、中学生に理解してもらえよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設の活動報告後、意見交換をし、サービスの向上に活かしている。	運営推進会議は地域の代表の方から社会問題、地域の課題、施設の運営に至るまで活発な意見をいただき、地域包括支援センターの職員さんと共に取り組むなどメンバーが楽しみとする会議となっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議等で、意見交換し協力関係を築くよう努力している。	運営推進会議や認定更新の機会など利用し積極的に、働きかけを行っています。	地区での行事を活用し、市職員に来てもらうことで地域とのつながりや利用者の笑顔を知ってもらい、より良い関係づくりに期待します。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	虐待拘束防止委員会を設け、身体拘束をしないケアについて取り組んでいる。	虐待拘束防止委員会を新たに立ち上げ、月1回勉強会を行っています。職員全体で共有が計られており、支援の場面でも、利用者の動きを見逃さずさりげなく寄り添う姿が見られます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待拘束防止委員会を設け、職員が虐待しないよう意識づけをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議で学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安や疑問点については、分かりやすく納得出来るまで説明し理解して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月お便りを出すことで信頼関係を築き、面会時には、意見や要望が言いやすい雰囲気をつくりに留意している。 玄関に意見箱を設置している。	施設の行事やお祭りを活用し、家族からの意見を引き出しやすくするとともに、面会時の対話を大切に運営へとつなげています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議で意見交換をし運営に活かしている。	利用者の状況や実情を良く知る現場職員からの意見を大切に、介護の仕方など運営に取り入れています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力、成果を出来るだけ把握するよう現場に向いている。 資格取得にむけた支援を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	講習会、研修会の情報を回覧して受講するよう推進している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ地区の行事には出来るだけ参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	排便の心配が多くそれぞれの対応で実施している。 声掛け、薬など本人の要望に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会に見えた時など、お互いにお話をして納得し、安心して頂ける様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	職員会議で意見を出し合い、現時点で最適な支援を導いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	感謝する気持ちを忘れずに、共に教え教わりながら過ごせるよう努めている。 出来ることは一緒に行き、支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に状況を伝え、ケアが上手くいくよう、家族にも協力してもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の要望に応えられるよう、家族と相談して対応している。	神楽が盛んだった地域ということもあり、一緒に神楽を見に行き、本人を取り巻く関係を継続したり、馴染みの美容院へ出かけ本人をよく知るお店の方から、支援のヒントを頂いています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レク、ドライブ、カラオケ等出来るだけ皆様に参加していただき、関わりを作る様に心掛けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設や病院に行き、継続的な付き合いが、出来るよう心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との関わりで、1人1人の思いや、意向を把握出来るよう努めている。困難な利用者は家族に話し少しでもきき入れるように努める。	日々の生活の中で感じる利用者の表情、言葉を大切に支援へとつなげています。又、言葉と異なる訴えは利用者の立場に立って考え職員間で話し合われています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族との会話にて今までの生活状況を把握し、その人らしい、暮らし方のサービス利用に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自分なりに出来ること、理解力の確認など全体を把握出来るよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の希望を優先して、職員と話しながら介護計画を作成している。	入所時や面会時に意向を確認していますが、状態の変化や気付きなどに応じて期間内であつても見直しを行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にチェック表やケース記録を用意し、身体状況やその様子を記入する。又申し送りとして引継ぎ時に職員へ伝えている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の希望を優先して、職員と話しながら介護計画を作成している。状況等必要な支援を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々とふれ合い、心豊かに安心して暮らせるように協力を得ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族と相談し主治医を決め、往診をお願いしているが、無理なときは受診できるよう支援している。	利用者や家族が希望するかかりつけ医となっており、往診が無理な時は職員対応で受診を行っています。受診結果は家族にも報告がなされています。特別に健康診断は行っていませんが定期的に血液検査を実施しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	何かありましたら、隣の有料老人ホームの看護師に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	細めに連絡を取り合い、早期退院に向けて取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	十分に対応できるケアを説明し、状態の変化があれば即家族に連絡し、医師と相談する。	看取りについて利用者、家族の意向をふまえて医師、職員皆で共有しています。又、施設が出来るケアについても家族に説明しています。看取りについて職員との信頼関係がしっかりと行われています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急法の研修は職員全員が態勢を整えている。職員会議等を利用し、救急法の訓練を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防署の協力を得て消火器の使い方の訓練を実施。 月に1回グループホームでの避難訓練を実施している。	マニュアルを作成し、年2回利用者と共に避難訓練を行っています。又、消防署の協力を経て避難通路の確認、消火器の使い方などの訓練を行っています。緊急時の連絡網を職員の見えやすい所に置きすぐに対応出来るようにしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー、個人の尊厳を頭に入れて対応している。	トイレ誘導の声かけ等、目立たずさりげない言葉かけをし、目配り・気配りをしプライバシーを損ねない様に配慮されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いを話せるよう、話やすい雰囲気作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活パターンを把握し希望に合わせて生活出来るよう対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定出来ない利用者には、職員が、その方に合った服を選び、髪の手入れや爪切りは、常に心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	施設内でできた野菜と一緒に収穫している。また利用者全員で食事が摂れるよう取れ組み、片付けも一緒に出来るよう取り組んでいる。	利用者と一緒に収穫した野菜等をメニューに加え、利用者全員で食事を楽しんでいます。嫌いな物で食べれない時は、他の代替で提供し食欲が出るように工夫しています。又、採れた作物でおやつ作りを行っています。	職員は弁当でしたが、利用者と一緒に同じ食事を楽しめる環境作りを期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お茶などで水分が摂れない人は、形態を変えて摂れるよう工夫している。食事量や水分は、チェック表で確認出来るようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、その方の状態に応じ職員が義歯手入れ、歯磨き介助、見守り、声掛けをして口腔内の清潔を保っている。 ポリドントを使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を基本としているが、夜間泰のみポータブルトイレを使用している方もいる。排泄チェック表を使用して個々の排泄パターンに応じてトイレ誘導している。	リハビリにもなるのでトイレでの排泄を大切にしています。排泄チェック表を使用し時間を見計らってトイレ誘導し、トイレでの排泄を支援しています。失敗しても利用者が傷つかないようにさりげなく対応しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は栄養バランスのとれたものが提供されている。便秘気味の方には、水分を多めに摂れるよう工夫している。予防としては、毎日少しでも体を動かせるよう取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員の勤務体制等から、回数、時間帯は必ずしも全ての方の希望に副った支援ではないが、週3回入浴実施。入浴剤を使用し、気分転換を図っている。体調によりシャワー浴、清拭をいっている。	週3回入浴を実施し、入浴剤の色で気分転換をし、希望する利用者には足湯を行い、ゆっくりと安心して満足な入浴が出来るよう支援されています。入浴を拒否する利用者はいません。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人の希望に応じて居間、ホール、居室で休息をとっている。夜間寝つかれない場合は、暖かい飲み物を提供したり、温度調整をしたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の状態変化がある場合、記録と報告を徹底している。薬の準備服薬前には、2名以上の職員が確認。服薬チェック表を使用し、確実な服薬に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野を見出し、モップ掛け、洗濯物たたみ等できることはお願いしている。していただいた時は、感謝の言葉かけをし自信を高められるよう配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、庭先で日光浴を楽しんでいる。初詣 チューリップ こいのぼり 案山子見学等、皆で出かけられる行事を月に1回計画している。	日常的な外出支援に限らず、思い出の場所や馴染みの店などの外出も行い、外出を楽しめる支援をしています。外出先でのトイレや食事のメニュー等下見をし安全に楽しめるよう工夫しています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	近くにお店もなく、金銭管理の出来る方は少ないので、職員が日常品の支払いをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の利用を希望する際には、事務所の電話を使ってもらっており、手紙が届いた方には、読み聞かせをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	外の花壇に季節の花を飾ったり、庭の草木を見て四季を感じてもらっている。また、季節感を感じてもらう為に、利用者と一緒にちぎり絵をしている。	共同空間の壁面に、利用者の作品や職員と一緒に作った季節の作品が飾られ、生活感や季節感を出し、居心地良く過ごせるよう整えられています。利用者も笑顔が多く安心感のある場所になっている様子が見られます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室で過ごすか、共有スペースで過ごすか本人に決めてもらっている。共有スペースには、ソファや椅子を置き、くつろげる工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物や、使い慣れた物を居室に置き、安心して過ごせるよう心がけている。	利用者の意志を確認しながら、その人らしく居心地のよい居室作りに取り組んでいます。寝具や写真、思い出の品々等が持ち込まれ利用者の居心地の良さに配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒防止に、廊下、トイレ、浴室に手すりを取り付けている。 出来ることは、してもらっているが、安全の為に見守りしている。		